



井上道義の 未来だった今より

「リトル・マエストロ」という映画の端役で外国人の老指揮者を演じるためにカツラを被った自分の顔を見ていて40年前を思い出した。

音楽家にはユダヤ人の才能が大いに寄与していることは誰もが知っていることだが、なぜなんだろうといつも思っていた。直感みたいなものだが、多分彼らは民族としては強い連帯を持ちながら長く共に住む国がなかったことが続いたため、周りの人々とコミュニケーションをとる難しさを常に感じていたからこそ音楽の力を借りたのではないか。音楽に携わる人は、他人と言葉を交えなくとも共生感を持てるツールとしての音楽の強さを信じている。

僕が24歳でミラノ・スカラ座の指揮者コンクールで優勝した後、ホテルに電話があり「君、ロンドン交響楽団と録音しないか？」といくらなんでも眉唾ものの売り込みがあった。「来い」

音楽 老いた一匹狼

というから賞金の一部で車を借りて着いたホテルは豪華なシャトーホテル。後で知ったがそこが一番安い部屋に泊まっていた。彼はその頃台頭してきた日本の資本を上手に使い、ユダヤ的なコミュニケーション能力(7カ国語を話した)を使って大ぶろしきを広げる老いた一匹狼のマネジャーだった。

でもそんな彼がウィーン、ザルツブルク、ベルリン、ロンドンと僕を紹介して回ってくれた。無償で？と疑問に思ったが、なんと彼は過去にブラジルでたくさんの汚職で財を成したポーランド生まれのお金持ちユダヤ人だったのだ。彼の年取った奥さんはかなりいいピアニスト、娘は最低な歌手もどき。その2人のためにレコードを作ることに彼の情熱の全てはあったのだ。音楽への愛？ ふ～！ 次週に続く。

(オーケストラ・アンサンブル金沢)
音楽監督

私の研究分野は「心身問題」の探求だが、人間の心についての研究はいまや、人工知能や認知科学、脳科学といった現代科学の連携のもとに進められている。哲学の中でも、心は物質的宇宙の一部(つまり脳活動の結果)であり、私はコンピュータやロボットも、うまく作りさえすれば人間と同じ思考や感情、意図を持てるという立場にコミットしている。

このような立場から、理工学系の研究者と共同し、人間の認知機能を単純なロボットに再現して実現しようとする研究にも取り組んでいる。2004年度が



ロボットにも心の実現